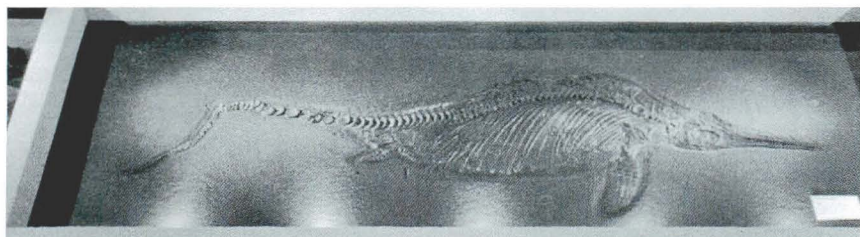


古生物グループ

樽 創 (当館学芸員)

古生物のスタッフは、旧博物館では地学グループの中に含まれていましたが、新しい博物館ではスタッフも増え一つの部門となりました。そして調査研究、資料の収集保管、展示、普及などの活動を行います。

さて、古生物といってもピンとこない人もいるかもしれません。しかし、化石といえば誰でも知っているでしょう。つまり昔の生物、化石を扱う部門です。化石の名前を調べる、昔の生物がどんな生活をしてきたか調べる、どの様に進化してきたかを調べるなど、化石を調べるにはいろいろなアプローチの仕方があります。古生物のスタッフは、化石の名前を調べるだけでなく、化石からいろいろなことが解ることを、来館者のみなさんに知っていただこうと思っています。みなさんも化石に関する疑問があったら、博物館に問い合わせして下さい。



中生代の海を泳いでいたステノプテリギウス。

展示のみどころ

生命展示室 1階の常設展示室では、生命の誕生、進化、生命の多様性について、実物、レプリカを用いて解説しています。具体的には、水中生活から陸上生活への脊椎動物の進化について、中生代に陸、海、空に適応した恐竜などの爬虫類、新生代に植物食に適応したゾウの仲間などを用いて、生物の多様性について解説しています。

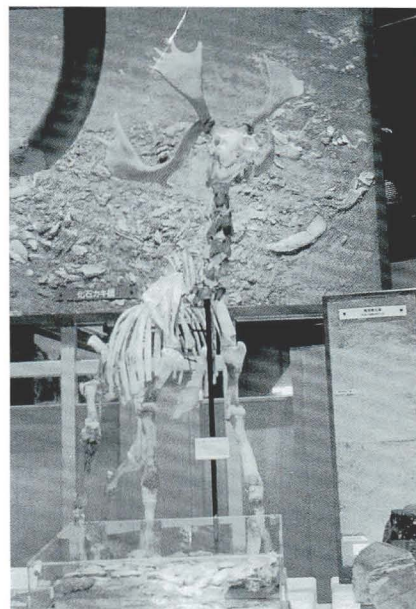
化石ラボ 生命展示室の奥に、ガラス窓の部屋があります。ここでは石や地層の中から化石を取り出すクリーニング作業を行う、化石ラボという部屋です。研究で利用したり、展示している化石は、クリーニング作業を終えた

標本です。このような作業は来館者のみなさんは、あまり知らないと思います。新しい博物館では、こうした普段見られない、地道ですが、大切な仕事もみなさんに知っていただこうと、この部屋を作りました。

神奈川展示室 神奈川県産の化石は貝などの軟体動物からゾウやクジラといった大型の脊椎動物まで展示しています。これらの化石は神奈川の大地の形成の謎を解く、大切な鍵です。化石から、神奈川県にはどのような生物が生息していたのか、また大昔の環境はどのような様であったか、現在とどの程度異なるのか、みなさんに知っていただこうと考えています。

研究活動

古生物のグループでは、化石のいろいろな見方を学んでいただくために、化石を用いたローンキット(教材)の開発を計画しています。本物の化石に触れることで、地球の歴史、生物の進化などが実感できるでしょう。このようなローンキットを学校等の教育現場で利用してもらい、より身近に自然科



大きな角を持つオオツノジカ。

収蔵資料

古生物の数万点にも及ぶ収蔵資料は県内外、国内外を問わず、学術的に貴重な資料が収集されています。資料の中には、博物館が独自に集めた資料のほかに、研究者の方々が集めたコレクションがあります。たとえば、サメの歯の研究者である G. R. Case 氏の古生代から新生代までのサメの歯の化石コレクションは、質、量ともに第1級のコレクションです。日本の植物化石のコレクションとして故尾崎公彦氏のコレクションがあります。このコレクションは、尾崎氏が収集した本州中部の新生代第三紀の植物化石です。このほかに、櫻井コレクション、永見コレクションなどがあります。また個人のコレクションとは異なりますが、ドイツのメッセルやブンデンバッハ、アメリカのホワイトリバーなど有名な化石産地の資料も系統的に収集しています。



いろいろな形をした恐竜の頭骨。